



深層心理研究会 30周年『記念誌』あとがきより 1993年8月

深層心理研究会 事務局長 千葉武夫

第1回のセミナーを昭和38年12月20日～25日に開催してから、平成4年で30回目のセミナーを迎えることができました。これもひとえに会員の皆様のおかげです。

そこで、30回記念誌を発行することにしたところ会長はじめ多くの方からたくさんの記事をお寄せいただきました。それらの記事を拝見して、まず感じたことは我が会にはなんと多彩で真摯な方がたくさんおられることか、ということです。次に、学校教育、医療関係、産業関係、自己啓発などのさまざまな分野で、深層心理技法を幅広くしかも独創的な方法で活用しておられることに感銘を受けました。

…中略…

ここで事務局として反省を含んで会の流れを振り返るとともに、今後何をなすべきかを考えてみたいと思います。

第一回セミナーの会員7名が現在758名の多くをかぞえるに至りました。

セミナーの初回は学校の先生方のみが対象でしたから、教育催眠一点に焦点を当てた他者催眠や自律訓練の技術を徹底的に深めていくというシンプルなものでした。

その後、医療関係、産業関係、幼児教育関係の方などさまざまな分野の会員が増えてきました。それらの方の中には自己啓発の手法の習得や人事の活性化への方法などを強く望む方もおられました。そのようなニーズにできるだけ応えたいということで、セミナーの内容も大変幅広いものとなりました。そのため、新しい会員は情報が多すぎて混乱をきたすと言うことがあり得たかも知れません。

しかし会長が述べておられるようにピグマリオン精神を中心とした教育観、教育哲学という会の基本理念が確立しつつある現在です。会としてはセミナーでは、できるだけ多くの手がかりを提供し、それを活用する際には、基本理念をふまえていけば自ら適切な方法を見出していただけると考えております。

会長は将来の展望の中で、カウンセリング・マインド+ピグマリオン教育観+深層心理技法を持つ指導者を増やしていくことは、現代社会がせつに求めている意義深い活動であると確信していると明確に将来展望を示していらっしゃいます。

…中略…

ここで今後行っていきたいことを思いつくままに述べてみたいと思います。

○地方会員へのサービス強化について・・・地方会員は月例会への参加もしにくいのが現状です。映像教材を製作して提供するなどの方法は考えられないでしょうか。

○会員の自己啓発についてのニーズに応える・・・会員の中には、自らの問題解決を強く望む方もおられます。できるだけ細かに対応したいものと考えます。

○会員外への社会活動・・・かつて会長は自己啓発のためのテープ教材を社会教育用に作られたことがあります。能力開発等に役立つハード・ソフトの提供やリラックス訓練教室の展開などにより社会教育への貢献ができればよいと考えています。

皆様のご支援、ご指導をお願いいたします。